



# 蟹江須成祭の葭(ヨシ)から 考える川文化と自然環境

須成祭 100日かけておこなわれる別名「100日祭」

## 川の葭(ヨシ)がご神体

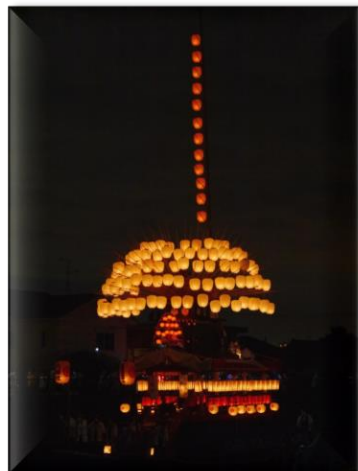
祭本番前(朝祭の7日前)の「葭刈神事」でヨシを刈取り、御神体となる葭の束「神葭(ミヨシ)」づくりが行われる。

## 蟹江川に浮かべる車楽船(だんじりぶね)

8月第1土曜の夜の「宵祭」では、囃子を奏でながら提灯に彩られた巻藁船(まきわらぶね)が蟹江川を天王橋まで上り、戻ってきた船は、翌朝の「朝祭」で提灯を外して人形に置き換え、和紙で作った梅と桜の花に飾られた車楽船へと模様替えして再び川を天王橋まで上る。

## 御神体を川に流す「神葭流し」

朝祭の翌日早朝、災厄を封じ込めた神葭を蟹江川へ流す。川から引き上げた御神葭を祀る「棚上がり」、朝祭の77日後に御神葭を燃やす「棚下し」で、全ての行事は終了。



宵祭りの巻藁船

## ヨシ 須成祭のご神体となる水生植物ヨシ

### 蟹江とヨシ

干拓前の蟹江には、湿地が広がっていた。現在でも蟹江周辺には、湿地特有のヨシ等の植物が残っている。

### 湿地特有の植物「葭(ヨシ)」

陸地と水の境界付近に生えるイネ科で、高さが1~3mにもなる。



神葭流し

## ワークショップ開催報告 伝統的祭礼と現代の川環境を考える

### 富吉建速神社・八剱社での座学と蟹江川でのフィールド体験

かつての湿地帯から発展した蟹江の川の文化と生物(ヨシやマコモなど)の生育環境の減少や劣化について学ぶ。



講演の様子

### 須成祭に関する講演

講師：大野麻子氏(蟹江町歴史民俗資料館主任学芸員)

### ヨシの水質浄化に関する講演

講師：上野薫氏(中部大学応用生物学部)

### 蟹江川での環境川下り

参加者を3班に分けて、ボートで「葭刈神事」同様のルートを通り、漂流するゴミ拾いやヨシ原の見学。

### ちまきのマコモ編み体験

須成敬神会の馬場恒幸会長と理事の方々の指導のもと、祭りで配られる、ちまきのマコモ編みの体験。



蟹江川のゴミ拾い

中部ESD拠点「日本の祭りと生物多様性保全プロジェクト」は、文化と生物の多様性を学び、それらの保全を通して持続可能な地域づくりをおこなう活動で、トヨタ環境活動助成を受けています。市民一人ひとりが、文化・日常生活との関わりの中で、生物多様性の重要性を理解するために、地域文化の中でも特に「祭り」に焦点を当てて、祭りに関わる植物・食べ物(食材)の生育環境保全についての学習プログラムを開発し、ワークショップを開催しています。

